

「基本目標4 文化活動の充実」に関する事業

(1-1) 点検・評価表

4-1 市民文化・市民芸術の活性化

4-1-1 文化・芸術に親しむ機会を充実します・・・・・・・・・・64

4-2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用

4-2-1 郷土芸能伝承行事の団体活動や後継者の育成を支援します・・・・・・・・65

4-2-2 市内の文化遺産を活用した企画展やイベントなどを充実します・・・・66

4-2-3 埋蔵文化財発掘調査の最新情報の発信を充実します・・・・・・・・・・67

4-2-4 市内の文化遺産の情報を発信するデジタル資料館を充実します・・・・68

4-2-5 市内の文化遺産のガイダンス設備を充実します・・・・・・・・・・69

4-2-6 史跡末松廃寺跡の解明を進め魅力ある再整備を実施します・・・・70

4-2-7 貴重な歴史遺産である史跡御経塚遺跡の再整備を実施します・・・・71

4-2-8 文化財施設の計画的整備と活用を図ります・・・・・・・・・・72

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

(担当課) 生涯学習課・教育総務課・地域振興課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 1 市民文化・市民芸術の活用性
 具体的施策 4-1-1 文化・芸術に親しむ機会を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・市立小中学校での古典芸能などを鑑賞する機会の提供
- ・「ののいちマナビィフェスタ」などを通じた文化・芸術鑑賞する機会の提供

■施策のまとめ

(1) 教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・古典芸能などの鑑賞や「ののいちマナビィフェスタ」や「いしかわ百万石文化祭2023」での本市開催イベントなど、子どもから大人まで幅広い世代を対象に文化・芸術を身近に感じることができる機会を提供できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術は、想像力豊かなひとづくりと活気あるまちづくりには欠かせないものであり、市民が普段から身近に感じることができる環境をつくることが重要である。 ・市民参加型のイベントなどを通じて文化芸術活動の充実を図るなど、文化・芸術を身近に感じることができる機会を継続して提供することが必要。

(2) 成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4実績値	R5実績値	目標値 (R13)

(3) 今後の展望

- ・古典芸能などの鑑賞や「ののいちマナビィフェスタ」など子どもから大人まで幅広い世代を対象に文化・芸術を身近に感じることができる機会を継続して提供する。

■評価

事業区分 (方向性)	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他 (縮小・廃止など)	理由
C	C		市立小中学校で実施されるイベントなどを通じて文化・芸術を身近に感じることができる機会を引き続き幅広い世代に提供していく。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-1 郷土芸能伝承行事の団体活動や後継者の育成を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・文化財保護審議会の開催
- ・郷土芸能伝承行事の市文化財指定（獅子舞・野菜神輿）
- ・郷土芸能伝承行事の市文化財指定に向けた調査の実施（虫送り）
- ・郷土芸能伝承団体への助成・活動の援助（獅子舞・野菜神輿・虫送り・地域じょんから）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会の開催や伝承団体への活動助成・支援を実施したことで、文化財の保存及び活用を図った。 ・地域での保存意識を高めるため、特に重要な伝統芸能、伝承行事を市文化財に指定した。 ・郷土芸能伝承行事について、過去の調査成果を整理し、無形民俗文化財の市指定に向けた補完事項を確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に残る文化財の保存及び活用を図るため、文化財の調査・指定、文化財保護審議会の開催を行っていくことが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
4-2-1	郷土芸能伝承行事普及啓発活動件数（累計）	回	1	4	9	15
4-2-1	市指定無形民俗文化財の件数	件	1	1	3	4

（3）今後の展望

- ・保存すべき郷土芸能伝承行事について文化財指定を目指し、未指定の郷土芸能伝承行事については調査研究を図る。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	C		郷土芸能伝承団体へは引き続き支援を行い、未指定の郷土芸能伝承行事については、調査・研究を行い歴史や実態の把握を継続して実施する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

(担当課) 生涯学習課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-2 市内の文化遺産を活用した企画展やイベントなどを充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・ 歴史資料を紹介する企画展の開催
 (文化財企画展「野々市の獅子舞・野菜神輿 会場：郷土資料館NoNo・富奥防災コミュニティセンター 来場者数：延べ3,009人)
- ・ 縄文土器づくり、勾玉づくりをはじめとした歴史体験イベントの実施
 (夏休み古代体験2023 会場：ふるさと歴史館 参加者数：延べ138人)
- ・ 北国街道をテーマにした歴史まち歩き講座の実施
 (「秋のお庭見学～北国街道の旧家を巡る」 会場：旧北国街道周辺 参加者数：21人)
- ・ 市ホームページ等を活用した歴史や文化財の情報発信
- ・ 市内小学校などに出向いての授業や講座の実施
- ・ 他自治体や関係団体との連携事業、共催事業の開催

■施策のまとめ

(1) 教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代体験、企画展示、講座などの実施により市民に市内の文化財を普及する機会を創出した。 ・ 他自治体や関係団体との連携事業、共催事業を開催し、文化財を活用したことで文化財への理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展やイベントについては、公共の財産である文化財の魅力をわかりやすく発信する効果的な方法を検討し、継続して市の歴史や文化財を幅広い世代に伝える事業を展開していくことが必要。

(2) 成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4実績値	R5実績値	目標値 (R13)
4-2-2	イベントなどへの参加者	人/年	1,694	1,078	3,992	5,000
4-2-2	文化財施設の利用者数	人/年	4,309	10,893	10,137	10,000

(3) 今後の展望

- ・ 文化財の魅力を広く周知するための普及啓発事業の内容や、事業の実施に際して効果的な周知方法なども検討し、実施する。
- ・ 文化財をより身近に感じることができるよう、文化財施設の活用を推進する。

■評価

事業区分 (方向性)	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他 (縮小・廃止など)	理由
C	C		市内の文化遺産を幅広い世代に普及・啓発するため、引き続き事業を継続する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

(担当課) 生涯学習課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-3 埋蔵文化財発掘調査の最新情報の発信を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・埋蔵文化財発掘調査の現地説明会の開催（末松廃寺跡 参加者数：66人）
- ・埋蔵文化財企画展の開催（石川中央都市圏考古資料展「古代編」 会場：ふるさと歴史館 来場者数：221人）
- ・市ホームページを活用した発掘調査成果の情報発信
- ・他自治体や関係団体主催の事業において、職員による埋蔵文化財発掘調査成果等の講義・報告の実施（寿大学歴史コースでの講義 主催：中央公民館 受講回数：3回 コース専攻者数：28人）
 （発掘速報会「いしかわを掘る」での報告 主催：石川県教育委員会等）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・埋蔵文化財発掘調査の現地説明会及び企画展等の開催により、市内文化財の最新情報や調査成果などが発信できた。	・現地説明会について、発掘調査の条件によって実施できない場合があるため、ホームページ等を活用し効果的な情報発信が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・市民に文化財を広く啓発するため、埋蔵文化財発掘調査現地説明会及び企画展などを継続して行うとともに、市広報や市ホームページを活用し、開催の周知や発掘調査成果の発信を行う。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	C		市民に文化財を広く啓発するため、埋蔵文化財発掘調査現地説明会及び企画展などの実施と情報発信を継続する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

(担当課) 生涯学習課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-4 市内の文化遺産の情報を発信するデジタル資料館を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・デジタル資料館のコンテンツの更新
- ・市ホームページへの掲載によるデジタル資料館の情報発信
- ・金沢大学資料館と石川県内の博物館等が連携したデジタル・アーカイブ形成事業にデジタル資料館掲載の資料を本市所蔵資料として公開

■施策のまとめ

(1) 教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・保存修理終了後の国重要文化財「御経塚遺跡出土品」写真をデジタル資料館に追加するなどコンテンツ内を更新することで内容の充実を図った。 ・大学や県内博物館等と連携した事業を実施したことでより多くの市民に本市の文化遺産の情報を発信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の調査成果や民具などの未掲載のコンテンツの補完や、アクセス数向上のための魅力的なコンテンツの考案・周知方法の改善を検証することにより内容の充実を図ることが必要。

(2) 成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4実績値	R5実績値	目標値 (R13)
4-2-4	デジタル資料館へのアクセス数	人/年	4,417	3,936	8,584	7,000

(3) 今後の展望

- ・デジタル資料館のコンテンツを拡充していくとともに、デジタル資料館のさらなる周知を目指す。

■評価

事業区分 (方向性)	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他 (縮小・廃止など)	理由
A	A		コンテンツ拡充及びアクセス数の向上を目指すため、内容の充実及び情報発信を図る。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

(担当課) 生涯学習課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-5 市内の文化遺産のガイダンス設備を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・市ホームページへの掲載及び市内文化財説明看板の位置を記載している文化財マップの配布による、説明看板の周知活動

■施策のまとめ

(1) 教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・市内文化財説明看板設置について、市ホームページへの掲載及び文化財マップを配布することで市民に広く存在を周知できた。	・新たに判明した遺跡等に対応した設置計画の作成や、既設看板についても板面へのQRコードの取り付けやホームページのリンク等、市民に広く文化遺産の周知ができるような工夫が必要。

(2) 成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4実績値	R5実績値	目標値 (R13)
4-2-5	文化財説明看板の整備数	基	58	59	59	70

(3) 今後の展望

・発掘調査によって新たに判明した遺跡や、新たに指定となった文化財について説明看板を計画的に設置し、既設の看板についても状況に応じて適切に板面を刷新していく。また、周知活動を継続して行う。

■評価

事業区分 (方向性)	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他 (縮小・廃止など)	理由
A	A		看板の新設や既設の看板の更新を行い、より市民に周知を図るため、事業を拡大・重点化する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-6 史跡末松廃寺跡の解明を進め魅力ある再設備を実施します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・発掘調査の実施（金堂北西部31㎡）
- ・現地説明会の実施（参加者数：66人）
- ・野々市市遺跡調査指導委員会の開催（2回）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・野々市市遺跡調査指導委員会及び文化庁・県による指導に基づき金堂跡の発掘調査を実施し、金堂を取り囲む溝や石を敷きつめた遺構を確認し金堂の範囲を確定した。 ・発掘調査現地説明会を開催し、調査成果を市民に広く周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の進捗に合わせて事業計画の見直しが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
4-2-6	発掘調査の進捗率	%	80	88	95	100
4-2-6	末松廃寺跡の再整備進捗率	%	45	56	61	100

（3）今後の展望

・令和5年度をもって令和元年度から実施してきた現地発掘調査を一区切りし、今後は出土品及び記録類の整理作業を行い、調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行していく。発掘調査報告書刊行以降の事業については、学識経験者などで構成される遺跡調査指導委員会及び文化庁・県からの指導を受けながら今後の事業計画について検討する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		遺跡調査指導委員会及び文化庁・県からの指導を受けながら事業を継続する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

基本目標	4 文化活動の充実
基本的施策	2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
具体的施策	4-2-7 貴重な歴史遺産である史跡御経塚遺跡の再整備を実施します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・国重要文化財に指定されている御経塚遺跡出土品の土器9点を文化庁の指導に基づき保存修理を行った。
 ・保存終了後の出土品については御経塚史跡公園に隣接しているふるさと歴史館での展示や、市内の文化財などを画像や映像で閲覧できる「野々市デジタル資料館」による公開を行った。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・保存修理の完了した出土品をふるさと歴史館での展示や、デジタル資料館による公開を行ったことで、文化財の魅力を広く市民に周知できた。	・国重要文化財石川県御経塚遺跡出土品の保存管理について万全を期し、デジタル資料館を活用するなどの展示公開の方法について、より魅力的な方法を考案する。 ・現在の史跡整備は、周辺の調査で得た成果から復元されており、本来の姿を示していないことから再整備のための発掘調査が必要。 ・事業の進捗に合わせて事業計画の見直しが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4実績値	R5実績値	目標値 (R13)
4-2-7	重文御経塚遺跡出土品修理の進捗	%	65	75	79	100

（3）今後の展望

・保存修理について、文化庁の指導を受けながら実施し、事業の進捗に合わせた計画の見直しも適宜行う。
 ・保存修理の完了した土器・土製品については、ふるさと歴史館において展示公開を行っていく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	C		修理計画及び文化庁の指導に基づき、保存修理を実施し、修理終了後の出土品は継続して展示公開を実施する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

(担当課) 生涯学習課

- 基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-8 文化財施設の計画的整備と活用を図ります

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・ふるさと歴史館・郷土資料館・喜多家住宅の管理・運営・活用

■施策のまとめ

(1) 教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・企画展やイベントの実施により文化財施設の活用促進を行った。 ・郷土資料館の一部を民間事業者の管理・運営に切り替え、民間事業者及び関係課と連携したことで郷土資料館周辺のにぎわい創出を推進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共施設個別施設計画」に基づいた計画的な施設改修が必要。 ・文化財施設の活用促進に向け、展示設備の整備やイベントの企画などの検討が必要。 ・カミーノ、カレードなどの他公共施設や関係団体、地元の大学などとの連携が必要。

(2) 成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4実績値	R5実績値	目標値 (R13)

(3) 今後の展望

・ふるさと歴史館については、「公共施設個別施設計画」や各種点検結果等に基づき、計画的な修理・管理を行っていく。
 ・郷土資料館は、「公共施設個別施設計画」等に基づき、修理等を計画的に実施し、民間事業者及び関係各課と共に引き続きにぎわい創出に努める。
 ・国重要文化財喜多家住宅については「重要文化財喜多家住宅保存活用計画」に即した保存・活用を文化庁や県等の指導を仰ぎながら適切に行っていく。

■評価

事業区分 (方向性)	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他 (縮小・廃止など)	理由
C	C		施設の更なる利活用の促進を図る。

(4-2) 学識経験者からの意見

・古典芸能はなかなか知る機会がないため、児童生徒が鑑賞する機会があるということは、文化芸能に親しみを持ち、心を育むことができるため、大変貴重なことだと思います。また、グローバル社会において、自国の文化を知る貴重な機会だと考えます。今後も一人でも多くの生徒に、本物の優れた文化・芸術を直に鑑賞・体験する機会を提供していただきたいと思います。

・野菜神輿、獅子舞、虫送りなどの文化財指定や伝承団体への活動助成により、郷土文化財の保存及び活用への意識が高まるものと思います。まだ文化財指定がされていない地域じょんから等についても、しっかりとした調査研究を実施していただくことにより、地域の人たちが身近な郷土芸能を見直す機会となるとともに、郷土愛を育むきっかけとなることを期待します。

・本市のデジタル資料館は、「国指定・市指定文化財」、「映像で見る野々市の民俗」、「写真資料」、「刊行図書」の項目に分けて、文化財や資料が整理されており、非常に活用しやすくなっていると思います。歴史的価値のある野々市市の文化財をより多くの人に見ていただき、身近に感じていただくために、地域に残る文化財の魅力を発信する取組の推進をお願いしたいと思います。まだ掲載されていないコンテンツの掲載内容の充実にも期待します。

・ふるさと歴史館、郷土資料館、喜多家住宅は、市民にとって貴重な文化財施設であります。郷土資料館については、一部を民間事業者の管理・運営に切り替え、民間事業者及び関係課との連携により賑わいが創出されています。今後も、文化財施設の活用促進に向け、展示施設の整備やイベントの企画・検討により市民にとって身近な文化財施設であるように努めていただきたい。

(4-3) 今後の方針

・市民参加型のイベントや学校での古典芸能などの鑑賞を通じて、多くの市民が優れた文化や芸術を身近に感じることができる機会を引き続き提供していきます。

・郷土芸能伝承団体への保存継承に向けた取組に対し引き続き活動支援を行い、文化財未指定の郷土芸能や伝統行事の調査研究も実施していきます。

・市ホームページで文化財資料の公開・活用を行うデジタル資料館の新たなコンテン

ツ作成等の充実に努め、市民にわかりやすく、広く周知します。

- ・ふるさと歴史館、郷土資料館、喜多家住宅の活用の推進を図ります。
- ・文化財企画展や古代体験学習、歴史講演会、学校での出前講座など、郷土の歴史や伝統行事の知識を深める普及啓発事業の更なる充実に努め、市民が利用しやすい情報の発信に努めます。